

和日館木種

しゅもくかんびより ◆ 第八号



文化のみち種木館
Cultural Path Shumokukan

発行日: 2013年 9月 26日

発行: 文化のみち種木館

指定管理者: 特定非営利活動法人種木倶楽部



大正末期、
陶磁器の貿易商として
活躍した井元為三郎によって
建てられた種木館。
七月より、洋館屋根
改修工事が始まりました。
赤茶色のスペイン瓦が
見上げ続けたあの日の空は、
今は遥か遠い昔。
晴れる空、曇る空、星降る空も。

よみがえ
甦る
スペイン瓦



魅るスペイン瓦

「文化のみち 榎木館洋館屋根改修工事」
 工事期間：平成25年7月16日(火)から平成26年1月上旬(予定)

榎木館の洋館は、大正末期から昭和初期に建てられました。室内にふんだんに使われたアールデコ様式のステンドグラスや赤茶色のスペイン瓦の屋根はそのシンボルともいわれています。90年近くの長い年月の老朽化にともない、七月から、この洋館の屋根の改修工事がはじまりました。「工事中にご来館いただくお客様に、少しでも気持ち良く榎木館のご見学をしていただけるように、通路や安全確保を常に心がけています」と語るのは(株)魚津社寺工務店の後藤千夏さん(写真)。女性の現場監督です。仮設の足場を、今日も軽やかに屋根まで上がります。スペイン瓦と言え



(株)魚津社寺工務店
現場監督の後藤千夏さん

ば、地中海沿岸に並び建つ、真っ白な漆喰塗りの家々に使われている鮮やかなオレンジ色の瓦で有名ですが、曲面の瓦を凹凸交互に重ねる工法は、日本の古来の木造建築や社寺建築で用いられる本瓦葺きと良く似ています。同じ形の瓦を順に重ねる現代の一般的な工法より、手間も時間もかかりますが、美しい色彩と暖かな素焼きの風合いを持つスペイン瓦が描く陰影には、独特の立体感と趣きを感じられます。長い年月の風合いが重なった榎木館洋館のスペイン瓦は、抜けるような青い空、曇り空、季節によって変化するそれぞれの空の下で、日々色々な表情を見せてくれます。大正末期、陶磁器の貿易商として活躍した井元為三郎が、多くのバイヤーを招待し、商談の場に使用されたと言われるこの洋館のスペイン瓦には、為三郎の美意識の高さと深いこだわりをうかがい知ることができます。洋館正面屋根の頂上にある、半円型の風通しにほどこされた優雅で洗練された美しいアイアンの装飾(表紙写真)もまた、そのこだわりのひとつと言えるでしょう。

現場監督の後藤さんに今回の工事の様子をうかがいました。

「榎木館の洋館の屋根は、当時の建築工法として、屋根の下地に土を敷き詰めた上に瓦を載せていました。今回の瓦の撤去時には、大量の土がでてきました。もとの場所がわかるように番号をつけ、全ての瓦を一枚ずつ大切に外し、丁寧に土をはらい、状態を調査しながら(写真)不足



裏面に並べられた洋館の瓦(一枚ずつ番号を貼り、状態を調査している)

不良分の瓦に関してはその形状や色に似た瓦を新たに焼き直して作り、再び取り付けます。瓦の総数は約6000枚。修復のための地道な作業が段取り良く進められています。

家族何代にも渡って、ひとつの家に暮らす文化を持つスペインの人たちにとって、スペイン瓦の屋根の手入れは、それぞれの家の歴史を重ね続ける事であり、その積み重ねが、家や街並み全体に古き良きと美しさを与えているのかもしれない。

榎木館の洋館のスペイン瓦も、今回の改修工事で多くの人達の手によって大切に手入れされ、甦り、大正末期当時の美しいたたずまいを、これからも次の時代へと伝えつづけていくことでしょう。洋館のスペイン瓦の屋根は平成26年、1月半ば過ぎに、再びご覧いただくことができます。また、今回の改修工事の記録写真展を春ごろまでに開催予定です。修復の過程や様子を是非ご覧ください。

文化のみち榎木館 広報 権田由美

「歩こう！文化のみち2013 津軽三味線コンサート」



昨年のコンサートの様子

11月3日(日)文化の日は、今年も名古屋城から徳川園に至る「文化のみち」一帯で、様々なイベントが催されます。榎木館では、毎年好評の津軽三味線のコンサートを催します。

紅葉美しい庭を眺めながら、徳山流家元の軽快なお話をまじえながらの三味線コンサートです。童話の弾き語りやお稽古体験もお楽しみいただけます。

●11月3日(日)午後1時30分～午後3時
 会場：和室
 徳山流・津軽三味線の演奏と家元の弾き語り
 「聴く・感じる・触れる」
 津軽三味線 童話童話とお稽古体験

文化のみち二葉館 秋のイベント案内 画家・柳瀬辰久「水墨の扉」展

渾身の思いで表現された屏風を前にすると作品たちが語り始めます。秋の一日に、眼でそして心で水墨の世界を感じてみてはいかがでしょうか。

●11月3日(日)～11月8日(金)
 会場：文化のみち二葉館
 入場無料、但し要入館料
 ※11月5日(火)は休館日



文化のみちがのこしたもの

NPO法人榎木倶楽部 副理事長 細江正俊

名古屋城から徳川園に至るこのエリアには、江戸から明治大正へと続く名古屋の近代化の歩みを伝える多くの建物などの貴重な歴史遺産が残されている。「文化のみち」と名付けられ、建築遺産の保存・活用が進められているこの地域は、江戸時代、約六百坪に区画割りされた武家屋敷町であった。



榎木町3丁目に建てられた井元商店

また明治半ばには、陶磁器の生産地で有名な瀬戸・多治見や堀川にも近く、船積みにも便利だったことから、陶磁器の絵付け・加工業者などが集まり、昭和初期には六百をこえる工場での輸出の陶磁器が生産されていた。

「文化のみち榎木館」は、当時の陶磁器商であった井元為三郎が、大正末から昭和初期にかけて建てた邸宅である。洋館にはステンドグラスが贅沢に使われており、為三郎は輸出陶磁器の商談を行うため、多くのバイヤーを海外から招待していたと言われている。地価高騰などから、多くの古い邸宅が壊されていくなか、榎木館は奇跡的に残った。そして平成八年から二四年にかけての市民活動による一般公開や文化的なイベント開催を経て、愛知万博が開催された平成一七年に、井元家から提供されたこの榎木館を舞台に「榎木倶楽部」が出来た。その当時の活動記録である「榎木倶楽部通信」には、「史跡・建築」「人・店・祭」「教育・学校」など、カテゴリー別にイベントの企画・運営や情報発信がなされていた記録が綴られている。平成一九年、名古屋市が榎木館を所有したことをきっかけに、それを管理運営する母体として「NPO法人榎木倶楽部」に生まれ変わり、平成二二年に新たに一般公開

開かれてから今日に至るまで、展覧会や演奏会など、市民参加の様々なイベントを通じて「文化のみち」の周知に努めてきた。私は、縁あって一年半前から、NPO法人榎木倶楽部の副理事長を務めている。「文化のみちがのこしたもの」というテーマ執筆にあたり、過去の榎木館の活動などを調べてみると、平成一七年八月の榎木倶楽部通信第一号に、「情妙寺交趾渡航図」の記載がある。そこには尾張の茶屋家が四百年前に徳川家康から朱印状を公布され始められた「朱印船貿易」の絵巻物が、茶屋家の菩提寺である情妙寺(東区筒井町)に献上されたことが綴られている。今年、朱印船貿易の相手国であったベトナムとの国交樹立40周年記念という事で、「日本ベトナム友好記念事業」の様々なイベントが愛知でも催された。一方「文化のみち榎木館」では、あいちトリエンナーレ2013協賛企画(パトナーシップ事業)として、「奥州梁川松平家と尾張徳川宗春展」、榎木館のルーツである陶磁器関係イベントとして、「一般財団法人名古屋陶磁器会館」の協力のもと、「陶磁器の凸盛り絵付け実演とトーク」の二つが同じ9月に企画された。

以上のように、榎木館が「文化のみち」として残した歴史から現在の活動までを見てきたが、今後も名古屋市指定管理者という立場から、榎木館及び文化のみちでの色々な活動により、市民を中心とした参加者に、文化のみち界隈の歴史・街並み・文化を、それぞれの人の感性で味わっていただければと考えている。また、榎木館の「貸室」でも文化活動が促進され、いつ榎木館を訪れても「文化のみち」を共感できるような企画が催されるように働きかけていきたい。

文化のみち



平成25年度催し物暦(4月~8月)

4/2~4/7
春のテーブルコーディネート展



4/24~5/6
名古屋近代建築散歩



5/31~6/2
木下家ウィーク
NAGOYA・2013



6/12~6/23
日本アルプス名山写真展



8/8~8/25
”秘境”と断崖絶壁”
飯田線の旅 写真展



文化のみち榎木館では、館主催イベントをはじめ、貸室利用によるイベントを年間通しておこなっています。当館では和室・洋室・茶室・蔵・庭をお貸しします。詳しくは下記の電話番号、ファックス番号へお問い合わせいただるかホームページをご覧ください。

◆のあるものは当館主催の催しです。052-969-2800までお問合せください。
*参加費、入場料の記載がないものについては入場無料(要入館料 大人200円)

2013年

◆9/19(木)～9/29(日)

【奥州梁川松平家と尾張徳川宗春展】
本年は尾張七代徳川宗春が卒して250年目になります。
奥州梁川(福島県伊達市)、尾張徳川家の「御連枝」梁川大久保松平家と最後の殿様 松平通春(徳川宗春の面影を写真などで紹介します)。
9/21(土) 午前11時～午後2時20分、午後2時～午後2時20分
【宗春イケメン隊(宗春口マ)隊のパフォーマンス】
9/22(日) 午前10時30分～正午
【講演会「徳川宗春について」南山大学 教授 安田文吉】
9/23(日) 午後1時30分～午後3時
【講演会「梁川と徳川宗春」読売新聞中部支社記者 千田龍彦】
9/26(水) 午後1時30分～午後2時30分、午後2時30分～午後2時45分
上映会「七間町橋弁慶奉 お囃子の復活」
名古屋活動写真 監督 森澤 肇
9/28(土)



◆10/12(土)～10/20(日)

【伊勢型紙で彫る「私の日本」展】
江戸時代より伝わる伝統工芸、伊勢型紙の作品展。会員それぞれが感じる「日本」。仏像もあれば富士山や蒸気機関車もあり、バラエティー豊かなモチーフを伊勢型紙で制作した作品の展示です。
10/14(月・祝) 19(土) 午後1時～午後3時
【名古屋まつり協賛イベント「伊勢型紙影絵芝居」】
伊勢型紙と和紙による鮮やかな光と影の世界をお楽しみください。
10/16(水)・17(木) 午後1時～午後3時
ワークショップ「伊勢型紙での葉しおり作り」
主催：NPOアクティブ・エイジ。なごや伊勢型紙部会
文化のみち榎木館
協賛：名古屋まつり協進会
※10/20(日)は入館無料日となります。

◆10/13(日)

【やぎの会 榎木館絵本読み聞かせ】
午前10時30分～午前11時30分
絵本読み聞かせ、わらわらたやま手遊びなど
主催：文化のみち榎木館



10/22(水)～10/27(日)

【京の色彩「日常を彩る着物」】
午前10時～午後5時
京都在住の若手作家「工房」による手描友禅、辻が花、絞り染めの作品展。鮮やかな色彩と伝統技法による技の美、我が国に誇る染めと和装の素晴らしい伝統文化を「観」てください。
主催：染色家 眞鍋沙智
問合せ先：yuzen@manabesachi.com
TEL:090-83324-1200-4



◆10/26(土)

【三味線「おもしろい」】
ワークショップ「午後1時30分～午後3時」
初めての方もカジュアルに弾いてみましょう。
満月の会によるデモンストレーションの後、三味線の説明、体験レッスンなど。
主催：文化のみち榎木館



◆11/3(日)

【歩こう！文化のみち】
徳山流 津軽三味線の演奏と家元の弾き語り
「聴く・感じる・触れる」
津軽三味線 童謡童話とお稽古体験
午後1時30分～午後3時
第一部「弾き語り&お稽古体験」
第二部「童謡と童話」
第三部「徳山流の世界」
主催：文化のみち榎木館



◆11/13(水)～11/24(日)

【陶人展】
表情豊かで今にも動き出しそうな陶人形。陶人形作家・栗原淑男氏による作品展。
主催：文化のみち榎木館



12/6(金)～12/8(日)

【第12回竹泉古流 初冬花展】
新春を迎えるにあたり、暮らしに潤いを与えるお花。竹泉古流の「心で生ける生け花をお楽しみください」。
主催：華道 竹泉古流
問合せ先：竹泉古流事務局 瀬木
TEL:090-09918-8943



◆12/10(火)～12/23(月・祝)

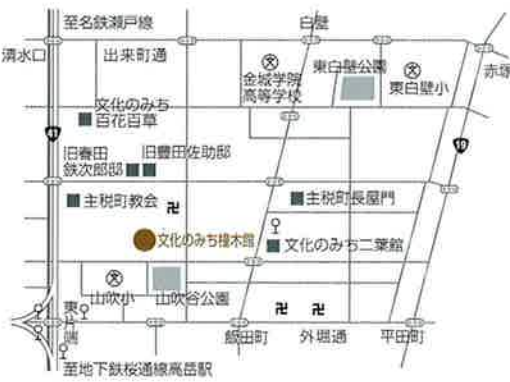
【名古屋のSL時代写真展】
懐かしい名古屋の鉄道風景の写真展です。
主催：文化のみち榎木館
協力：名古屋レールアーカイブス



2014年

◆2/8(土)

【文化のみち二葉館 ふたばの日】
文化のみち榎木館も入館無料日となります。
先着100名様は白酒をお楽しみいただけます。



なごや観光ルートバス
NAGOYA SIGHTSEEING ROUTE BUS
メーグル

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

*最新のイベント情報はホームページでご確認いただけます。*イベント予定は変更となる場合があります。*敬称略